

「学び合い」による「思考の共有と吟味」

学び合いを通してめざす子どもの姿



「よし、同じだ。これでいいんだ」(確信)
 「そうそう、そうなんだよ」(共感)
 「あれっ、なんか違うな。なぜだ？」(吟味)
 「ということは、こういうことか」(再構築)
 「もしかしたら、こうかもしれない」(推理)
 「だったら、こうしたらどうかな」(創意)

◎ 仲間と考えを共有したり吟味したりすることを通して自分自身の中で対話が生まれ、新たな自分の考えをつくり出すことが「学び合い」の目的です。

教師のコーディネート

発問：めざす子どもの姿を想定して、中心発問を吟味する。

学習活動：子どもの意識の流れに沿った学習活動を工夫する。

机間指導：子どもの考えを的確に見取って、学び合いの見通しをもつ。

『〇〇さんの考えから入って、
 □□さんの考えを関わらせて深め、
 △△という考えに着地させよう』

構造的な板書の工夫

◎ **学び合いを可視化する。**

- 話し合いの論点や視点を書く。
- 板書で思考を刺激して深める。
(書く位置、空白の部分、色チョーク文字の大きさ、心情曲線 など)
- 子どもたちの発想を表現する。
(KJ法、ブレインストーミング、ウェビングマップ、ランキング など)
- 子どもたちの考えや発言を類型化する。
(ベン図、マトリックス表 など)

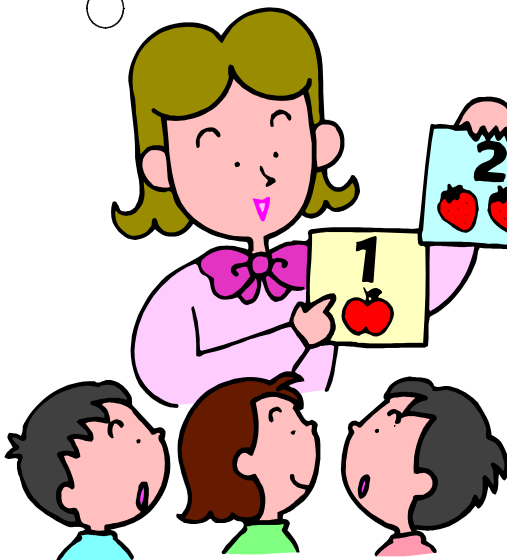
教師の言葉かけ

◎ **考えをつなぐ言葉かけ**

「～さんのよいところはどこですか」(発見)
 「～さんはどうしてこういう考えが浮かんだと思いますか」(推測)
 「～さんの考えはどういうことですか」(要約)
 「～さんの考えの続きがわかりますか」(予想)
 「～さんの気持ちがわかりますか」(共感)
 「ヒントが言えますか」(補助)

◎ **論理的思考力を刺激するつなぎ言葉**

「だとしたら…」 「たとえば…」 (膨らます)
 「つまり…」 「…をもとにすると」 (深める)
 「もしかすると…」 「でも…」 (広める)



聴き方をほめて育てる！

- ◎ しっかり聴いて反応している。
(うなずいている、つぶやいている、笑顔になる、首をかしげる、目を開く)
- ◎ 参考になる内容をメモしている。
- ◎ 発言や発表の内容を確かめている。
「たとえば～ということですか？」 など
- ◎ 説明者にアドバイスしている。

目的をもったグループ活動とは？

- ◎ **練り上げてよりよい意見にする。**
例) ノートを見せ合いながら説明する。
→ 良い所に印を付ける。
→ 考えをつないでまとめる。
- ◎ **出てきた多様な考えを整理する。**
例) 付箋紙に書き出す → 発表しながら分類する → 傾向や規則性を考える。

『学び合い』の授業は何が大切なの？

何のために思考を「共有」したり「吟味」したりするのでしょうか。自分の考えをもち、友達のことをと比較することで気づきが生れます。互いのよさを認め合いながら、根拠を明確にして表現する活動を繰り返すことで「思考力・判断力・表現力」が高まります。子どもが知的好奇心や学ぶ必然性を感じる学習内容を吟味するなど、明確な授業構想をもつことが大切です。

「学び合い」の授業では、互いの考えに反応し合う子どもの姿と、考えをつなぐ教師の支援が話し合い活動を支えます。

<中学校 2年理科「化学変化と原子・分子」>

【グループにする必要性】

話し合えないと解決できない課題の設定が「共有」と「吟味」の深まりを決めます。

○学習課題

水の電気分解



→



+



は正しいだろうか？

「共有させたいこと」

- 水素や酸素は1種類の原子が2個結び付いた分子で存在する。(単体)
- 反応前後で原子の数は変わらない。(ドルトンの原子説)
- 化学式とその前の数字から、反応前後の物質の種類と原子や分子の数がわかる。(化学反応式)

【明確な教師の意図】

モデルを使ってイメージをもたせ、反応前後で原子の種類と数が変わらない考え方を共有させれば、科学的な思考力が身に付いて、互いの考えに反応し合う姿が見られるだろう。

○話し合いの例

【話し合うツールの活用】

モデルを動かして推理しながら説明(確認)し合っている。

友達の話に反応する(聴く)姿が重要です。

【機能する共有と吟味の活動】

- ① 一人一人が自分の考えをもつ活動
- ② 友達の考えなどを共有する活動
- ③ よりよい考えを吟味し合い、再構成する活動

【思考の吟味】

意見や根拠の違いを吟味する教師の揺さぶりが大切です。

1 モデルを動かしながら自分の考えを整理する。

2 モデルを使って考えを説明する。

S1: 水を電気分解すると水素と酸素ができるからH₂とO₂で表せるね。

S2: 反応前と反応後の原子の数が合っていないよ。

S3: あれ、水素原子の数が合わないな。

S4: そうか、水分子2つにすれば……。

S5: なるほど!先生わかりました!

3 化学変化をグループ(4人)で話し合っでモデルで表す。

4 共有した各グループの考えを全体で吟味する。

T: では、前に勉強した炭酸水素ナトリウムの分解もモデルで説明できるかな?

S6: 分解の実験で使ったね。

S7: 先生、化学式がわかりません。

T: 化学式はNaHCO₃です。(板書) それでは、グループで考えてみましょう。

《思考活動》

A: 3つの物質に分かれたんだよね。

B: 水ができたから、H₂Oか……。

C: そうか、Na₂CO₃が残った粉末か!

5 全体で考えを吟味して新たな自分の考えを作り出す。

【機能しているグループ活動】

一人一人に役割と発表の機会がある。

考えを比較しながら全員が納得して進めている。

【学び合いを支える教師の働きかけ】

この化学式の意味を説明できるかな。

〇〇さんの考えを簡単に言うとどうなるかな。

【学習のつながり】

話し合いの成果を全体での学習に生かすことが大切です。